

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	鈴鹿インター株式会社 さつきの里 グループホーム A		
所在地	三重県 鈴鹿市 伊船町字北上の割り2020-3		
自己評価作成日	平成21年11月12日	評価結果市町村提出日	平成22年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470301017&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを実践している。残存機能を十分発揮していただき、出来ることは見守り、出来ないところをそっとフォローしている。利用者が主役、スタッフは黒子。本人、家族が希望されれば、看取り介護までします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鈴鹿山系の麓、さつきなどの苗木を栽培している田園地帯に位置している。高速道路のインターに近く、物流倉庫が隣接しているが、四季を体感できる静かな環境である。手入れの行き届いた広い中庭を有する明るい建物がデイサービスに併設した2ユニットのグループホームである。利用者全員がゆったり集える明るい共有スペースや利用者一人ひとりの暮らしを支える居室は安心して暮らせる工夫が随所に見られる。グループホームの理念『奉仕の精神を常に持ち、暖かい気持ちと思いやりで接し、明るい安らぎのある 里 作りに努める』を、実践し、経験豊かな管理者のもと職員の質とレベルの均一化を目指している。昼食時、『ずーと此処で暮らしたい』と話された利用者を見守る職員の眼差しは優しく、家族からも感謝の声が多く届いている和やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目に見えるところに掲示している。しかし、見ていない職員が多い。今後、会議時や朝礼時を利用し、認識を深めたい。	『地域と融合し、安心と信頼を感じてもらおう里 とする』を運営方針の1つに掲げている。月1回会議を開催し、職員全体で話し合い、基本的な理念と具体的なケアについて意見の統一を図るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3ヶ月に1度近隣地域2団体の老人会の方々を招き、健康教室を開催している。	近隣に住宅が少ない地域であるが、自治会に加入している。地域の中学校・小学校の運動会や文化祭への参加、保育園児の慰問や併設デイサービスでの老人会の健康教室で地域住民と交流し、利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるように配慮し、支援している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の職場体験授業や、大学生の教育実習の場を提供し、認知症の方々の理解や、支援の方法を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行い、地区のお祭りに誘っていただいたり、「あられ」の作り方を教えてもらったり、包括支援の方より、助言をいただいている。	7月26日に第6回目の運営推進会議を自治会長・民生委員・包括職員の参加で開催している。勘案事項や検討事項について経過を報告し、意見を出してもらうようにしている。(現時点では3ヶ月に1回の開催である。)	運営推進会議は外部の方々の目を通して事業所の取り組みを理解してもらい、支援や改善につなげる機会として、いろいろな方がたや行政の協力を得て、2ヶ月に1回開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないこと、困ったこと等、相談にのってもらっている。	鈴鹿・亀山地区広域連合(鈴鹿市役所内にある)と協力関係を築いている。介護相談員も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	工夫して、取り組んでいる。玄関は開放しており、広い庭の散策は自由である。しかし、安全も配慮し、柵を設けており、門扉は施錠している。	管理者・職員ともに身体拘束・言葉の拘束の内容と弊害を良く理解しており、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。外に出たい方の気持ちを汲んだ支援もおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。今後、いっそう、学び、職員の誰でも、正しい認識を持てるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族関係者と管理者とは理解しているが、職員には、説明をする程度。今後は職員も学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に図っている。契約書や、重要事項説明書などで、十分説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付のポスターの掲示や、意見・苦情受け付けのボックスを設置している。気軽に、ご意見や苦情を受けられるよう、家族様の面会の折に訊ねるように努力している。利用者本人となると、限られている。	家族がいつでも訪問しやすい様に、又なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。さつきだよりを月1回送付して近況などを報告し、家族会も開催している。出された意見、要望などは運営に反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に訪問し、意見を聞いて、反映してもらっている。管理者は、スタッフ長会議時や1F、2Fの会議時に、また、毎朝のミーティングで、聞く機会を設けている。	代表者は定期的に事業所に訪問し、またイベントの際はとも協力的である。管理者は現場の職員の意見を十分に聴き、職員の気付きなどを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年、近隣の介護施設の給与水準を調査し、今春より、給与を上げてもらった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修会、グループホーム協会の研修会、ケアマネ協会の研修会等に積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会、ネットワーク作り、勉強会等に参加し、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人よりお聞きし、職員間で共有し、信頼関係を築くために努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、申し込み時、契約時などにお聞きし、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。しかし、初期ケア計画の充実を強化していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理の無い程度に出来ることを十分に活用し、自信を持って生活していただくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理解していただいている家族様が多く、支えられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人、宗教関係の方々等、自由に来所していただけるよう努めている。	隣接のデイサービス利用の友達や知人と継続的な交流ができるように働きかけている。またお墓参りの支援や、お花の先生には活けてもらい、お琴が好きだった方には居室でお琴の曲をCDできいてもらうなど利用者一人ひとりの場面作りを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態、状況、認知度等を考慮し、かかわりあい、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切に、本人の希望や意向の把握に努めている。またコミュニケーションが取れない方においては本人本位に検討している。	センター方式を活用し、利用者の言葉や言葉にしづらいおもいを日々の行動や表情からくみとり、それらを24時間シートに書き込み、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、家族様からの情報で、なるべく多く知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察、見守り、会話、介助などにより、現状把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力し、取り組んでいる。十分本人に聞き出せる方はもちろん、難しいかたには、これとこれとどっちが良い?等と選択してもらったり、家族様と相談したりと、工夫している。	家族の意見や現場の担当者からも意見やアイデアを出してもらい現状に即した介護計画を作成し家族からも同意を得ている。	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しはもとより、本人・家族の要望をふまえて、変化に応じて臨機応変に見直し、現状に即した介護計画を作成していくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングや会議、ケアカンファレンスで共有し、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応すべく、スタッフと取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校、中学校の運動会に招いてもらい、競技に参加している。文化祭にも参加している。慰問も沢山受け入れて楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に合わせて、2週間に1度の方、4週間に1度の方、必要時のみの方・・・と往診を受けている。急患に関しては、24時間対応となっている。	家族・利用者の納得と同意のもと利用者全員の方が、現在は協力医がかかりつけ医である。在宅医療総合管理を契約された方は2週間に1度の往診と24時間医学管理がある。それ以外の方は4週間に1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携」で、看護師の出勤日を確保している。月に50時間を目標にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。バイタルチェック表のコピーや、介護日誌のコピー、服薬情報、施設経過書などを提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針」をはじめ、本人、家族、必要時医師、看護師も交え、重度化や、終末期に向けた方針の共有、支援をしている。	協力医療機関との24時間連携体制のもと、出来る限り重度化や終末期の支援をする方針である。さつきの里の『利用者の重度化した場合における対応に関わる指針』を作成し、家族にきちんと説明を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはおこなっていないので、いざという時は、全ての職員が対応できるとはいかない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、1回は昼間を想定し、1回は夜間を想定した訓練をおこなっている。夜間の地域との協力体制は築いていない。	年2回、昼夜を想定して避難訓練を行っている。時間を計っての誘導や想定されるあらゆることを全職員が身につけるようにしている。本年は消防署の協力のもと『煙ハウス・地震体験車』を職員・利用者ともに体験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、尊重は十分に配慮しているが、プライバシーの問題で、トイレ介助のおり、トイレのドアが開いていることがある。今後は十分気をつける。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように、笑顔で優しい話しかけをするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。自己決定が困難な方は、本人本位を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人のペースに合わせている。希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声かけで、出来る方もみえる。介助が必要な方にも、気をつけて、支援をしている。外出時には特におしゃれをこころがけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に職員がしている。好みについては、配慮している。準備や方付けは出来る方には一緒にしてもらっている。	昼食は併設のデイサービスとともに業者委託がされており、ほとんど出来上がったものが配達されてくるが、利用者は盛り付けやお絞り配りなど出来ることを行なっている。職員と利用者は同じテーブルをかこんで楽しく食事をしている。朝食・夕食の献立は一人ひとりの好みや希望を聴きながら、地域の仕出し屋さんから、食材配達の協力を得て調理は事業所で行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	注意をはらって、一人一人に応じた支援をしている。好き、きらいにも配慮はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はしていない。夕食後のみしている。自立している方には声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、就寝前のトイレの声かけをはじめ、個々の方の残存能力や、個々の方のパターンを活かす努力をしている。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや表情から一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方に応じ、予防や対策を職員間で検討して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	改善の余地がある。理由があって今までは午前を入浴にあてていたが、今後は午後も検討してみる。	ほとんどの方は週3～4回の入浴である。入浴剤や季節の柚子湯や菖蒲湯などで楽しんで入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早くから休まれる方から、0時前後に休まれる方まで、自由にしていただき、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や用法については把握している。服薬支援と症状変化にも気を付けている。副作用については、服薬情報紙を確認しながら検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努め、家族様からの情報を得て出来る限りの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭には自由に出られる。役所への用事や買い物時を利用して、なるべく多く外出の機会を作っている。梅見、桜見、昼食会、コスモス見学、もみじ狩、等外出の機会を作っている。	お天気のよい日は、広い敷地内の手入れの行き届いた中庭の散策やベンチでの日向ぼっこなど自由に戸外に出かけられる。また近くに出来たショッピングセンターまでの買い物や、季節の花見など希望に添って出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は無い。今後、計画していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援はしている。手紙の支援も、ちょうど年賀状の季節でもあるので、是非出してみたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心にかけている。トイレの表示、また、壁面を利用し、利用者様と季節ごとの飾り等を製作し、楽しんでいる。	大きな窓のある明るい共有スペースには畳のコーナーや大きなソファが置かれ、利用者一人ひとりが思い思いの場所で居心地良く過ごせる配慮や工夫が随所に見られる。掃除も行き届き気になる臭いや空気の澱みも見られない。2階の窓からの鈴鹿山系の眺めは四季を体感できるものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座り心地の良いソファがいくつか有り、思い思いにくつろいでもらっている。また、必要に応じ、席替えなどして、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで家や自分の部屋で使用していた、馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。また、ご本人の希望により、場所を変えたりして、いろいろ工夫している。	洗面台が設置されている居室には大きな窓があり、明るくゆったりとした作りである。テレビや筆筒、机、椅子、カセットラジオなど思い思いのもので利用者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症状に応じて、居室の移動をした例がある。出来る限り、工夫や支援をしている。		